

教科（科目）	国語	単位数	単位 4	学年（コース）	1 学年
使用教科書	光村図書 『国語1』				
副教材等	文理『中学必修テキスト国語1』 東京法令出版『解いて覚える中学生の文法』 尚文出版『常用漢字ダブルクリア』 好学出版『Winning 国語1』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （1）社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- （2）社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- （3）言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、

国語を尊重してその能力の向上を図る態度養う。

2 指導の重点

文章の叙述を根拠に理由付けて、正確に理解したり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたりする力を育成します。（言語活動の充実）

3 評価基準

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	- 漢字や語句、言葉の決まりに関する知識を身に付けている。 - 読むことに関する基本的な知識を身に付けている。 - 字形を整えて書いている。（書写）。 - 話や文章に含まれている情報を正しく扱っている。	- 自分の考えを分かりやすく伝えられている。また、話の内容を注意深く聞いている。 - 目的や意図に応じて、分かりやすく書いている。 - 様々な文章を読み、内容や要旨を的確に読み取っている。	- 国語に関心をもち、意欲的に粘り強く学習に取り組んでいる。 - 自分の学びについて、見通しをもって進めたり振り返ったりしている。
評価方法	- 定期考査 - 小テスト - 音読 - 書写の作品 などから、評価します。	- 定期考査 - 授業中のパフォーマンス（スピーチ、朗読、作文、レポート等） などから、評価します。	- 課題等の提出状況 - 授業の取組（見通しと振り返り） - 暗唱テスト などから、評価します。

4 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動	評価 の観 点	評価の方 法
4	言葉に出会う ために	7	「朝のリレー」 「野原はうたう」 「声を届ける」 「書き留める」 「言葉を調べる」	・ 詩の中の言葉や表現に着目し、詩に表れているもののみかたや考え方を捉える。 ・ 音読・発表の仕方やや、学習の記録の仕方、辞典・事典の引き方について理解を深める。	a b c	・ 音読発表会の様子 ・ 音読 ・ 振り返り
5	1 学 びをひ らく	9	「はじまりの風」 「漢字1組み立てと部首」 「ダイコンは大きな根？」	・ 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、登場人物の気持ちの変化を捉える。 ・ 段落と段落の関係に着目しながら文章の展開を捉え、内容を読みとる。	a b c	・ 定期考 査 ・ 好きな ものの作文 ・ 振り返り
6	2 新 しい視 点で	14	「情報を聞き取り、要点を伝える」 「音声の仕組みや働き」 「ちょっと立ち止まって」 「好きなことをスピーチで紹介する」 「情報整理のレッスン 比較・分類」 「情報を整理して説明しよう」 「情報収集の達人になろう」 「文法への扉1」	・ 音声の働きや仕組みについて、理解を深める。 ・ 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。 ・ 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。 ・ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深める。 ・ ことばの単位について理解する。	a b c	・ 定期考 査 ・ スピー チ ・ 実技 ・ 聞き取 りテスト ・ 振り返り
7	3 言葉 に立ち 止まる 読書生 生活を豊 かに	11	「言葉2 指示する語句と接続する語句」 「空の詩 三編」 「言葉3 さまざまな表現技法」 「比喩で広がる言葉の世界」	・ 指示する語句と接続する語句の種類や使い方、役割について理解を深める。 ・ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解する。 ・ 文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握する。 ・ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使う。	a b c	・ 定期考 査 ・ 詩歌の 創作作品 ・ 振り返り

			「俳句をつくろう」 「読書を楽しむ」	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。		
8 9	4 心の動き	13	「大人になれなかった弟たちに…」 「星の花が降るころに」 「語彙を豊かに心情を表す言葉」 「漢字2 漢字の音訓」	・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、登場人物の気持ちの変化を捉える。 ・比喩や心情と情景の関連性など、文章を根拠にして、登場人物の判断や行動について自分の考えをもつ。 ・漢字の音訓について理解を深める。	a b c	・定期考査 ・作品のよさ作文 ・振り返り
10	5 筋道を立てて	10	『『言葉』』をもつ鳥,シジュウカラ」 「思考のレッスン2 意見と根拠」 「根拠を明確にして書こう」	・事実と意見と理由を読み分けて、要旨を捉える。 ・図表と文章との関係に注意しながら、事実とそれに基づく筆者の考えを読み分ける。 ・根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。	a b c	・定期考査 ・レポート作品 ・振り返り
11	6 いにしへの心にふれる	10	「いろは歌」 「蓬莱の玉の枝」 「今に生きる言葉」	・古文の仮名遣いやリズムに注意して音読し、古典の世界にふれる。 ・現代のつながりを考えて読み、物語のおもしろさについて、自分の考えをもつ。 ・訓読の仕方にふれ、漢文調のリズムに注意して音読する。 ・単語の種類、品詞について理解する。	a b c	・定期考査 ・紙芝居作品 ・暗唱テスト ・振り返り
12	読書に親しむ	11	「文法への扉2 言葉の関係を考えよう」 「書写」(楷書, 行書) 「好きな本をスピーチで紹介する」	・文の組み立て、五つの文の成分を理解する。 ・楷書と行書の特徴を理解し、筆遣いを意識して作品を書く。 ・選んだ本のよさを、構成、展開、表現等の観点を明確にしながらその効果について自分の意見をもつ。 ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。	a b c	・定期考査 ・スピーチ実技 ・聞き取りメモ ・振り返り

1	7 価値を見いだす	10	「漢字 3 漢字の成り立ち」 「文法への扉 3 単語の性質を見よう」 「『不便』の価値を見つめ直す」 「百人一首」	・事実と意見と理由を読み分けて、要旨を捉える。 ・文化の違いについて、自分の考えをもつ。 ・「百人一首」に興味をもつ。	a c	・定期考査 ・暗唱テスト ・百人一首大会
2	8 自分を見つける	14	「少年の日の思い出」 「二十歳になった日」 「体験を基に随筆を書く」	・場面展開や人物描写に着目して、登場人物の心情の変化を捉える。 ・作品の構成の工夫を読み取り、その効果について自分の考えをもつ。 ・自分で立てた問いについての考えを三角ロジックを組んで説明し合う。 ・事実や体験から導き出した自分の考えを、根拠を明確にして書く。	a b c	・定期考査 ・ワールドカフェ ・随筆作品 ・振り返り
3	振り返り	11	「ぼくがここに」 「一年間の学びを振り返ろう」 「国語の力試し」	・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使う。 ・具体的な事実や体験を根拠に、自分の学びを書く。 ・今までの学習を生かしてそれぞれの学習課題に粘り強く取り組む。	a c	・詩 ・新聞 ・問題

計 120 時間（50 分授業）

5 課題・提出物等

提出物 ○毎時間→漢字テスト ○毎週→週課題として副教材 ○授業→パフォーマンスに関わる作品や振り返り ○考査毎→考査範囲の必修テキスト、分析ノート ○長期休暇→その都度課題や確認テストの有無をお知らせします。

課題 各学期 暗唱課題 4 作品

6 担当者から一言

国語は、みなさんの一生涯の強い味方・友だちになります。楽しみとしての生涯読書は、あなたの生涯に渡っての心の相談者になります。また、読解力を身につけると、電化製品・電子機器をはじめ生活に必要な様々なもののマニュアルを読めるようになります。そして何より、コミュニケーション能力が高まります。相手の伝えたいことを理解したり、自分が伝えたいことを十分伝えられるように工夫したりする学習をしていきます。

教科（科目）	国語	単位数	単位 4	2 学年	2 学年
使用教科書	光村図書『国語2』				
副教材等	文理『中学必修テキスト国語2』 東京法令出版『解いて覚える中学生の文法』 尚文出版『常用漢字ダブルクリア』 好学出版『Winning 国語2』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 指導の重点

根拠を明らかにして、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力を育成する。（言語活動の充実）

3 評価基準

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・漢字や語句、言葉の決まりに関する知識を身に付けている。 ・読むことに関する基本的な知識を身に付けている。 ・字形を整えて書くことができる（書写）。 ・話や文章に含まれている情報を正しく扱うことができる。	・自分の考えを分かりやすく伝えることができる。また、話の内容を注意深く聞くことができる。 ・目的や意図に応じて、分かりやすく書くことができる。 ・様々な文章を読み、内容や要旨を的確に読み取ることができる。	・国語に関心をもち、意欲的に粘り強く学習に取り組んでいる。 ・自分の学びについて、見通しをもって進めたり振り返ったりしている。
評価方法	・定期考査 ・小テスト ・音読 ・書写の作品	・定期考査 ・授業中のパフォーマンス（スピーチ、朗読、作文、レポート等）	・課題等の提出状況 ・授業の取組（見通しと振り返り） ・暗唱テスト

4 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動	評価 の観 点	評価の方法
4	広がる学 びへ	6	「見えないだけ」 「アイスプラネット」 「意見を聞き、整理 して検討する」	・詩の中の言葉や表現に着目し、詩に表れているもののみかたや考え方を捉える。 ・目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈する。 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解する。	a b c	定期考査 授業の取組 (見通しと 振り返り) 振り返りシ ート
5	多様な視 点から	1 4	「枕草子」 「思考の視覚化」 「情報を整理して伝 えよう」 多様な方法で情報を 集めよう」 「漢字1 熟語の構 成」「クマゼミ増加の 原因を探る」	・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。 ・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深める。 ・二字熟語の主な構成の仕方について理解する ・図表と文章との関係に注意しながら、事実とそれに基づく筆者の考えを読み分ける。	a b c	定期考査 授業の取組 (見通しと 振り返り) 振り返りシ ート ○暗唱テス ト
6	言葉と向 き合う	1 2	「魅力的な提案をし よう ～沖縄に関する数 字のスピーチ～」 「文法1 自立語」 「文法2 用言の活 用」 「言葉の力」	・数字の表す事実を根拠に三角ロジックを組んで考えを伝える。 ・情報と情報との関係の様々な表し方を理解する。 ・自立語の単語の種類、品詞、活用について理解する。 ・情報と情報との関係の様々な表し方を理解する。	a b c	定期考査 授業の取組 (見通しと 振り返り) 振り返りシ ート ○スピーチ ○小テスト
7	言葉と向 き合う いつも本 はそばに	1 2	「短歌に親しむ」 「短歌を味わう」 「短歌の創作教室」 「言葉1 類義語・ 対義語・多義語」 「語彙を豊かに」 「俳句をつくろう」	・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。 ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握する。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使 う。	a b c	定期考査 授業の取組 (見通しと 振り返り) 振り返りシ ート ○鑑賞文

			「読書を楽しむ」	・感じたことや想像したことを短歌や俳句に書く。 ・詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。		
8 9	情報× SDG s 人間のき ずな	1 0	「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」 「デジタル市民として生きる」 「ヒューマノイド」 「字のない葉書」 「言葉 2 敬語」 「漢字 2 同じ訓・同じ音をもつ漢字」	・登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 ・目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈する。 ・観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使う。 ・同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使う。	a b c	定期考査 授業の取組 (見通しと 振り返り) 振り返りシ ート
10	論理を捉 えて	1 5	「モアイは語る―地 球の未来」 「思考のレッスン 1 根拠の吟味」 「適切な根拠を選ん で書こう 意見文を 書く」 「聞き上手になろ う」	・事実と意見と理由を読み分けて、要旨を捉える。 ・文章を絵図に変換し、書かれている内容を仲間に説明する。 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解する。 ・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。 ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる。	a b c	定期考査 授業の取組 (見通しと 振り返り) 振り返りシ ート ○レポート
11	いにしえ の心を訪 ねる	1 2	「扇の的」 「仁和寺にある法師」 「漢詩の風景」 「気になったニュースについてスピーチする」	・古文の仮名遣いやリズムに注意して音読し、古典の世界にふれる。 ・現代のつながりを考えて読み、物語のおもしろさについて、自分の考えをもつ。 ・訓読の仕方にふれ、漢文調のリズムに注意して音読する。 ・根拠を明確にして理由付けて自分の考えを述べる。 ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。	a b c	定期考査 授業の取組 (見通しと 振り返り) 振り返りシ ート ○暗唱テス ト ○レポート ○作文 ○スピーチ
12	価値を語 る いつも本 はそばに	1 1	「君は『最後の晩 餐』を知っている か」 「『最後の晩餐』の新 しさ」	・観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える。 ・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果	a b c	定期考査 授業の取組 (見通しと 振り返り) 振り返りシ ート

			「思考のレッスン2 具体と抽象」 「立場を尊重して話し合おう」 『『自分らしさ』を認め合う社会へ」	を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。 ・本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かす。		○鑑賞文
1	表現を見つめる	1 2	「書写」(行書) 「文法3 付属語」 「走れメロス」	・行書の特徴や筆使いを理解して、紅葉「雲海」を書く。 ・助詞や助動詞などの働きについて理解し、話し手の意図を考える。 ・場面展開や人物描写に着目して、登場人物の心情の変化を捉える。 ・作品の構成の工夫を読み取り、その効果について自分の考えをもつ。	a b c	定期考査 授業の取組 (見通しと 振り返り) 振り返りシート ○書写作品
2	表現を見つめる	7	「描写を工夫して書こう」 「言葉3 話し言葉と書き言葉」 「漢字3 送り仮名」	・事実や体験から導き出した自分の考えを、根拠を明確にして書く。 ・話し言葉と書き言葉の特徴について理解する。 ・送り仮名の原則と特殊な送り仮名について理解する。	a b c	授業の取組 (見通しと 振り返り) 振り返りシート ○作文 ○レポート
3	表現を見つめる	9	「月夜の浜辺」 「鍵」 「国語の学びを振り返ろう」 「国語の力試し」	・詩歌の読み方(形式、技法、構成、主題)を思い出しながら、自力で読む。 ・具体的な事実や体験を根拠に、自分の学びを新聞に書く。 ・学習内容の総復習をする。	a b c	授業の取組 (見通しと 振り返り) 振り返りシート ○レポート

計 1 2 0 時間 (5 0 分授業)

5 課題・提出物等

課題

- ・上記学習計画の評価方法の「○」印のもの
- ・单元ごと→振り返りシート
- ・毎時間→漢字小テスト
- ・月に2, 3回程度（月ごとの授業回数によって変動）→漢字テスト

提出物

- ・毎時間→漢字小テスト
- ・月に2, 3回程度（月ごとの授業回数によって変動）→漢字テスト
- ・毎週→週課題として副教材
- ・授業→パフォーマンスに関わる作品や振り返り
- ・考查毎→考查範囲の必修テキスト, 分析ノート
- ・長期休暇→その都度課題や確認テストの有無をお知らせします。

6 担当者から一言

言葉に触れることで世界が広がったり、考えが深まったりする喜びを感じてほしいと思います。
（担当：阿部恵）

令和7年度シラバス（国語）

学番6301

新潟市立高志中等教育学校

教科（科目）	国語	単位数	単位 4	学年（コース）	3 学年
使用教科書	光村図書『国語3』				
副教材等	文理『中学必修テキスト国語3』 東京法令出版『解いて覚える中学生の文法』 尚文出版『常用漢字ダブルクリア』 好学出版『Winning plus 国語3』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 指導の重点

1 学期においては、文章の叙述を根拠に正確に内容を理解したり、自分の考えを相手に伝えたりする。2 学期においては、高校古典の基礎の定着を目標に、文章構造に着目して古文と漢文を読み解く。(言語活動の充実)

3 評価基準

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・漢字や語句、言葉の決まりに関する知識を身に付けている。 ・読むことに関する基本的な知識を身に付けている。 ・字形を整えて書くことができる(書写)。 ・話や文章に含まれている情報を正しく扱うことができる。	・自分の考えを分かりやすく伝えることができる。また、話の内容を注意深く聞くことができる。 ・目的や意図に応じて、分かりやすく書くことができる。 ・様々な文章を読み、内容や要旨を的確に読み取ることができる。	・国語に関心をもち、意欲的に粘り強く学習に取り組んでいる。 ・自分の学びについて、見通しをもって進めたり振り返ったりしている。
評価方法	・定期考査 ・小テスト ・音読 ・書写の作品	・定期考査 ・授業中のパフォーマンス(スピーチ、朗読、作文、レポート等)	・課題等の提出状況 ・授業の取組の様子 ・振り返り

4 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動	評価の観点	評価の方法
4	深まる学びへ	10	「握手」 「学びて時に之を習ふ」	・文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えるとともに、批評したり、考え	a b	定期考査

				たことなどを伝え合ったりする。 ・教材を正しく書き下したり、脚注を参考にして現代語訳を作ったりする活動を通して、孔子の考え方を読み取る。 ・必要に応じて訓読の方法や返り点の種類などを確認させる。	c	授業の取組 振り返りシート ○小テスト
5	視野を広げて	1 4	「作られた『物語』を超えて」 「説得力のある構成を考えよう」 (スピーチ) 「熟語の読み方」	・本文を序論・本論・結論に分け、ゴリラなど野生動物の事例から、筆者の主張に至る論理の展開をとらえるとともに、「具体と抽象」、「原因と結果」、「意見と根拠」などの概念を使って論理の流れや関係などを整理する。 ・興味を引く導入や明確な主張、聞き手が納得できる根拠や提案の設定、適切な説明の順序などを考えて、スピーチを実践する。 ・重箱読み、湯桶読み、熟字訓について理解するとともに、様々な熟語の意味や読み方に触れる。	a b c	定期考査 授業の取組 振り返りシート ○スピーチ
6 7	言葉とともに	1 4	「俳句の可能性」 「俳句を味わう」 「実用的な文章を読もう」 「報道文を比較して読もう」	・観点ごとに情報を整理し、着眼的を参考に情報の客観性や信頼性を確認しながら内容を理解する。 ・「季語」「有季定型」「歳時記」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」の意味を捉える。 ・本文中から、筆者のものの見方や感じ方がよく表れている語句や表現を抜き出して、意味を確認するとともに、俳句についての鑑賞文を書く。	a b c	定期考査 授業の取組 振り返りシート ○鑑賞文
8 9	状況の中で	1 6	「挨拶」 「故郷」	・作者がこの詩の中でどのようなことを考え、伝えようとしたのか、現代社会の状況と重ね合わせながら、自分の意見を述べる。 ・抽象的な表現について具体的に説明する。 ・回想の場面と現在の場面とを比べて、描写がどのように変化しているか捉える。 ・読み深めたことを踏まえ、作品のもつ特性や価値について批評する。	a b c	定期考査 授業の取組 振り返りシート
10	言葉とともに	1 2	「漢字の造語力」	・和語・漢語・外来語の表現を比較し、それぞれの特徴について正しく理解する。	a b	定期考査 授業の取組

	価値を生み出す		「それでも、言葉を」	・具体的な事例を挙げるなどして、抽象的な概念への理解を深める。 ・筆者の見方・考え方を踏まえ、言葉についての意見をもつ。	c	振り返りシート
11	いにしえの心を受け継ぐ	1 8	「古典文法：用言の活用（動詞）」 「児のそら寝」 「古典文法：用言の活用（形容詞、形容動詞）」	・言語文化と古文の関係に着眼し、これから学習する古文分野への関心意欲を高める。 ・動詞の九つの活用について正しく捉え、見分けられるようにする。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・形容詞の活用について正しく捉え、見分けられるようにする。	a b c	定期考査 授業の取組 振り返りシート
12	価値を語る	1 4	「漢文訓読の仕方」 「漢文の構造を捉える」 「漁夫之利」	・言語文化と漢文の関係に着眼し、これから学習する漢文分野への関心意欲を高める。 ・主語、述語、目的語の文章構造を捉えたうえで、正しく訳出する。 ・現在用いられる故事成語の多くが漢文に由来することを踏まえたうえで、故事成語の意味を説明する。	a b c	定期考査 授業の取組 振り返りシート
1	表現を見つめる	1 4	「ある人、弓射ることを習ふに」	・正しく品詞分解をしたうえで逐語訳することで、作者が文章を通して伝えたかった思いを捉える。	a b c	定期考査 授業の取組 振り返りシート
2	表現を見つめる	1 4	「再読文字」 「虎の威を借る狐」	・現在用いられる故事成語の多くが漢文に由来することを踏まえたうえで、故事成語の意味を説明する。	a b c	授業の取組 振り返りシート
3	表現を見つめる	1 4	「用言の活用の復習」 「助動詞について」 「助動詞：ず、たり、り、つ、ぬ、き、けり」	・古典文法の用言の活用について、問題演習を通して、活用表を正しく埋められたり、活用の種類や活用形について正確に理解する。 ・助動詞の活用形について触れる。	a b c	授業の取組 振り返りシート

計 1 4 0 時間（5 0 分授業）

5 課題・提出物等

課題

- ・上記学習計画の評価方法の「○」印のもの
- ・振り返りシート（授業後に提出するもの、単元末に提出するもの）
- ・毎時間→漢字小テスト
- ・月に2，3回程度（月ごとの授業回数によって変動）→漢字テスト

提出物

- ・毎時間→漢字小テスト
- ・月に2，3回程度（月ごとの授業回数によって変動）→漢字テスト
- ・毎週→週課題として副教材やプリント
- ・授業→パフォーマンスに関わる作品や振り返り
- ・考查毎→考查範囲の必修テキスト，分析ノート
- ・長期休暇→その都度課題や確認テストの有無をお知らせします。

6 担当者から一言

2学期からは中学の内容を離れ、高校古典の内容を学習します。1学期の間に文章読解の基礎的、基本的な力を身に着けるとともに、「自ら課題を求めて学習する態度」を身に付けてほしいです。読解スキルを身に着けることはもちろん、学びの基礎体力を向上させることで、スムーズに高校生の学習へと移行できる1年間となるよう努めましょう。（担当：小田 翔太）

（ 現代の国語 ）

令和7年度シラバス

市中等1新潟市立高志中等教育学校

学 科	普 通 科				
教科名	国 語	単 位 数	2 単 位	学 年	4 学 年
使用教科書	「現代の国語」（数研出版）				
副教材等	「新国語便覧」（第一学習社） 「現代文単語 げんたん 改訂版」（いっずな書店） 「大学入試に出た核心漢字2500＋語彙1000」（尚文出版）				

1 学習目標

- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

- ①様々な文章に触れ、その構成、語句の意味、表現の仕方などを理解し、言語感覚を豊かにする。
- ②様々な視点に立ったり、情報を整理したりすることで、より正確に読解する力を養う。

3 評価規準と評価方法

〔評価規準〕 評価は次の3観点で行います。		
① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、表現の幅を広げようとしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を的確に、効果的に使おうとしている。
〔評価方法〕		
・定期考査、課題考査、小テスト、各種課題、授業で取り組んだ成果物。		

4 指導計画

月	単元名	授業時数	教材	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	評論読解 問題を提起する	7	「書けない日々」 「感情暴走社会の由来」	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の明示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。	a b c	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容
5	評論読解 対比する	7	「コミュニケーション能力とは何か」 「デジタルメディア時代の複製」	・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。	a b c	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
6	評論読解 対比する	7	「わらしべ長寿の経済学」 「命は誰のものなのか」	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりする。	a b c	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
7	評論読解	6	「ポストプライバシー」	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	a b	小テスト 課題の記述内容 振り返り 課題の提出状況
8	発表する	3	「課題を発見し解決策」	・伝え合う内容を検討し、自らの考えが相手に	a	小テスト

			を発表する」	確に伝わるように構成や表現を工夫する。	b c	課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
9	評論読解 解釈を述べる	8	「未来をはじめ」 「事実なのか考えなのか」	- 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。 - 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりする。	a b c	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
10	評論読解 意見を述べる	9	「知識のシステムをつくる」 「無痛化する社会のゆえ」	- 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 - 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。	a b c	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
11	評論読解 具体例を述べる 関連づける	7	「動物園というメディア」 「絵を前に思いをめぐらす」	- 個別の情報と一般化された情報との関係について理解する。 - 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する。 - 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。	a b c	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
12	評論読解 表現を工夫する	8	「科学コミュニケーション」 「目的に合わせて表現を工夫する」	- 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 - 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。	a b c	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況

1	評論読解 情報を聞き取る	6	「時を編む人間」 「文章の構成を工夫して提案する」	- 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 - 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	a b c	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
2	評論読解 論証する	5	「他者を理解すること」 「言語技術の実践レポート」	- 主張と論拠など情報と情報との関係について理解し、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 - 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。 - 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。	a b c	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
3	評論読解 話し合う	5	「浪費を妨げる社会」 「言語技術の実践ディベート・討論」	- 論理展開に注意して読み取ることで筆者の主張を正確に読み取る。また、本文で示される概念や観念の意味を考えることで抽象的な思考力を高める。 - 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫する。	a b c	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容

計 70 時間 (55 分授業)

5 課題・提出物

・小テスト、各種課題、授業で取り組んだノートやプリント等。

6 担当者からの一言

「現代の国語」は、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けながら、論理的に考える力を高める科目です。具体的には、明治以降の評論、実用的な文章に触れることで、「読む力」「話す力」「聞く力」「書く力」を高め、総合的な「国語力」の育成を図ります。授業では、文章の構造や筆者の主張を捉えることはもちろん、筆者の主張について、自分の思いや考えを広げたり、様々な分野の知識を増やしたりしながら、積極的に自己表現に努めてほしいと思います。

(言語文化)

令和 7 年度シラバス

市中等 1 新潟市立高志中等教育学校

学 科	普 通 科			
教科名	国 語	単位数	3 単位	学年
使用教科書	「言語文化」(数研出版)			
副教材等	「改訂三版 完全マスター古典文法」(第一学習社) 「新明説漢文」(尚文出版)「新国語便覧」(第一学習社) 「言語文化の基礎学習」(尚文出版) 「古文単語 330」(桐原書店)			

1 学習目標

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- ・言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めるとともに、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2 指導の重点

- ①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。
- ②自分の思いや考えを広げたり深めたりする活動を通して、言語感覚を豊かにする。

3 評価規準と評価方法

〔評価規準〕 評価は次の3観点で行います。		
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	・作品や文章に表れているものの見方や考え方を捉えたり、表現の仕方や特色について注意しながら読み取りすることで、作品の解釈を深めようとしている。 ・古語辞典・漢和辞典を活用し、語句の用法を判断して品詞分解したり、逐語訳をしたりできる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
〔評価方法〕		
・定期考査、課題考査、小テスト、各種課題、授業で取り組んだ成果物。		

4 指導計画

月	単元名	授業時数 (と領域)	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	評価方法
4	小説読解	8	・言語文化と近現代 近代小説 羅生門	a b c	・小説末尾の文章の意味を、正確に理解することに加え、改稿前と後の文章による印象の違いに気づき、それぞれ正確に解釈する。	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
5	古文読解	8	物語 竹取物語 随筆 枕草子	a b c	・平安時代の儀式について踏まえつつ、かぐや姫と竹取の翁の人物造型を根拠をもってわかりやすく説明する。 ・『枕草子』では『白氏文集』の主題は捨象されていることを理解したうえで、知的言語遊戯としての本文の性格に言及する。	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
6	漢文読解	11	史伝 管鮑之交 先従隗始 鶏口牛後	a b c	・春秋・戦国時代の歴史的知識を踏まえて、管仲と鮑叔の齊国における立場、郭隗が賢者を招こうとした経緯、蘇秦の外交政策の特徴などを説明する。	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
7	小説読解 古文読解	9	現代小説 サラバ！ 和歌集 万葉集、古今	a b c	・「僕」とヤコブがどのように関係性を構築したかを文脈の中で正確に理解し、「人と人との交流において大切なこと」について考える。 ・和歌修辞を十分理解し、それぞれの歌に込められた心情や主題について明確に説明する。	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
8	漢文読解	3	漢詩 中国の詩	a b c	・「静夜思」「月夜」「八月十五日」に共通してみられる「月が空間を超えて人を結ぶ」というモチーフについて、説明する。	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況

9	詩歌読解	1 2	サーカス I was born	a b c	- 作品の内容を正確に解釈したうえで、作品に対する独自の感想を述べるができるている。 - 本文中に見られる古典常識について、現代の名残とともに理解し、本文を読解する。	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
10	漢文読解 詩歌読解	1 2	漢詩 日本の詩 短歌、俳句	a b c	- 日本語と漢文で異なる意味をもつ言葉について、双方の意味の違いを説明しながら、詩の内容を理解する。 - 各自で選択した歌が持つ味わいを吟味したうえで、表現したいことを明確に示した鑑賞文を作成したり、工夫をして短歌を作成する。	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
11	古文読解 小説読解	1 0	日記文学 土佐日記 城の崎にて	a b c	- 常套句的な意味とともに、『土佐日記』全体の構成とも関連づけながら、結びの一文に込められた心情を説明する。 - 作品に描かれる死生観を文脈の中で正確に理解し、内容を正確に解釈したうえで、「生と死」に対する思いを自身の体験を踏まえて文章にする。	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
12	古文読解	1 2	軍記物語 平家物語	a b c	- 和漢混交文の表現の特徴を正確に指摘し、その効果を説明することに加え、登場人物の関係性について本文を踏まえて理解し、両者の違いを対比的にわかりやすく説明する。 - 複数の解釈を比較検討した上で、教材本文の解釈を自分なりに構築する。	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
1	小説読解 古文読解	7	沖縄の手記から 俳諧紀行 おくのほそ道	a b c	- それぞれの作品が成立した背景を踏まえたうえで、各作品が伝える中心的な内容を正確に理解する。 - 本文中の句について正確に解釈したうえで、改作前の初案との内容の差をわかりやすく説明し、改作の動機を推測する。	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
2	漢文読解 小説読解	8	文章 雑説 熊説 山月記	a b c	「雑説」「熊説」が書かれた動機について、唐代中国の歴史的背景を踏まえた上で自分なりに考えをまとめる。 - 作品の展開を踏まえ、人間が虎になるという設定がもたらす効果について理解を深める。	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況
3	古文読解	5	古典と注釈	a b c	注釈書ごとの和歌解釈の違いを正確に捉えたうえで、どちらの説を採るか、筋の通ったオリジナルティーのある論述をする。	小テスト 課題の記述内容 振り返りの内容 課題の提出状況

計 1 0 5 時間 (50分授業)

5 課題・提出物

・単元テスト、文法事項確認テスト、各種課題、授業で取り組んだノートやプリント等。

(古典探究)

令和 6 年度シラバス

学 番 6301 新潟市立高志中等教育学校

教科(科目)	国語(古典探究)	単位数	3単位	学年	5学年(共通)
使用教科書	精選古典探究(第一学習社)				
副教材等	・プログレス 標準編 古文・漢文(いっずな書店) ・完全マスター 古典文法(第一学習社)・必携新明説漢文(尚文出版) ・わかる・読める・解ける古文単語330(いっずな書店) ・速読トレーニング 古典(基礎)(数研出版)				

1 学習目標

・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

・語句の意味、用法、文の構造を理解する。

・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。

・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。

・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。

3 評価基準と評価方法

〔評価基準〕 評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ ・定期考査の分析 ・レポートや課題の提出物などの内容確認 ・小テスト・課題テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートや課題の提出物などの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期考査の分析 ・レポートや課題の提出物などの内容確認 などから、評価します。

4 学習計画

月	単元名	授業時数(と領域)	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
---	-----	-----------	-----	------------	-------	------

4	古文読解	4	古今著聞集 小式部内侍が大江山の歌の事	「丹後へ遣はしける人は参りたりや」とは、どのようなことを言おうとしたのか説明する。 ・「大江山……」の歌で、小式部内侍が伝えようとしたことを説明する。 ・「返歌にも及ばず、袖を引き放ちて、逃げられけり」とは、誰がなぜそのようなにしたのか説明する。 ・「大江山」はどのような教訓を示すために収録されていると考えられるか話し合う。 ・『沙石集』の編者が、忠見のあり方をどのように評価しているか説明する。	a	・ 振り返りシート ・ 定期テスト
		4	沙石集 歌ゆゑに命を失ふこと	・「大江山」はどのような教訓を示すために収録されていると考えられるか話し合う。 ・『沙石集』の編者が、忠見のあり方をどのように評価しているか説明する。	b	・ 振り返りシート ・ 授業中の発言，発表や討論への取り組みの観察
5	漢文読解	1	故事/ズームアップ 訓読の歴史	・ 漢文に慣れ、訓読上のきまりをより正しく理解する。 ・ 故事・寓話の持つ寓意を理解し、思考力や批判力を養う。	a	・ 振り返りシート ・ 定期テスト
	古文読解	4 4	嬰 逆 鱗 知音	・ 訓読で教材を朗読する。 ・ 音読みによる直読で教材を朗読する。 ・ ロ語訳で教材を朗読する。	b	・ 振り返りシート ・ 授業中の発言，発表や討論への取り組みの観察
		1	歌物語/をばすて山（大和物語）	・ 三種類の朗読から受ける印象の違いを話し合う。 ・ 「男」が「をば」を捨てるに至った経過を整理する。 ・ 「をば」を捨てた後再び迎えに行くまでの「男」の心情はどのようなものだったか、話し合う。	c	・ レポート ・ 振り返りシート
6	古文読解	4	歌物語/をばすて山（大和物語）	・ 「男」が「をば」を捨てるに至った経過を整理する。 ・ 「をば」を捨てた後再び迎えに行くまでの「男」の心情はどのようなものだったか、話し合う。	a	・ 定期テスト ・ 授業中の発言，発表や討論への取り組みの観察
	漢文読解	2	漢詩/ズームアップ 漢詩を作ってみよう	・ 単元内の教材の学習を踏まえて、漢詩の規則を確認する。	b	・ 授業中の発言，発表や討論への取り組みの観察
	古文読解	4	随筆(「二月つごもりごろに」(枕草子))	・ 「春」をテーマとした七言絶句を作る。 ・ 内容・形態によって三つに大別される章段のそれぞれを読んで、文章に表れたものの見方や考え方を理解する。 ・ 自由な文体の随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を	c	・ レポート ・ 振り返りシート

7	古文読解	5	初冠（伊勢物語）	・物語の中で和歌が果たしている役割を押さえながら、場面と登場人物の心情とを読み味わう。 ・歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・歌物語を読み、文語のさまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ・学習の見通しを持って歌物語を読み、文章の中で和歌が重要な役割を果たす歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。	a	・定期テスト ・振り返りシート
	漢文読解	4	史伝/鴻門之会・項王自刎	・「鴻門の会」の読解を踏まえ、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。 ・「四面楚歌」「項王自刎」の読解を踏まえ、項羽が江東に帰らなかった理由を考えて話し合う。	b	・授業中の発言，発表や討論への取り組みの観察 ・定期テスト
8	漢文読解	3	史伝/鴻門之会・項王自刎	・「鴻門の会」の読解を踏まえ、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。 ・「四面楚歌」「項王自刎」の読解を踏まえ、項羽が江東に帰らなかった理由を考えて話し合う。	a	・定期テスト ・振り返りシート
	古文読解	5	日記文学(一)/東路の道の果て（更級日記）	・物語を読みたいと思う気持ちが表れている表現を順に抜き出す。 ・「人知れずうち泣かれぬ」という作者の気持ちを説明する。	b	・授業中の発言，発表や討論への取り組みの観察 ・レポート
9	古文読解	9	日記文学(一)/物語（更級日記）	・作者が『源氏物語』を読むことに没頭していることがわかる表現を抜き出し、そのときの気持ちを考える。 ・「いとはかなく、あさまし」というのは、いつの時点のどのような気持ちを表現したのか、考える。 ・『源氏物語』に登場する「夕顔」や「浮舟」がどのような女性なのか調べ、作者がこの二人を取り上げた理由を考える。	a	・定期テスト ・振り返りシート
	古文読解	3	物語/光源氏誕生（源氏物語）	・帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに対し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。	b	・定期テスト ・授業中の発言，発表や討論への取り組みの観察
10	古文読解	6	物語/光源氏誕生（源氏物語）	・帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに対し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。 ・「一の皇子」と「玉の男皇子」とに対する帝の接し方の違いを説明する。 ・帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。	a	・振り返りシート ・定期テスト ・授業中の発言，発表や討論への取り組みの観察
	古文読解	6	物語/若紫（源氏物語）	・藤壺が入内したことで、桐壺帝はどのように変わったか、説明する。 ・藤壺はまわりの女御・更衣からどのように見られていたか、説明する。 ・藤壺に対する光源氏の心情を説明する。	b	・定期テスト ・授業中の発言，発表の取り組みの観察
11	古文読解	6	物語/若紫（源氏物語）	・藤壺はまわりの女御・更衣からどのように見られていたか、説明する。 ・藤壺に対する光源氏の心情を説明する。	c	・振り返りシート

12	古文読解	9	大鏡	・歴史物語という、実際の歴史に取材した物語を読み、宮中を中心とする権力者たちの姿の一端に触れる。 ・歴史物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・作者の意図を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として敬語表現に関する文語のきまりへの理解を深める。 ・今までの学習を生かして歴史物語を読み、作者の意図をふまえて内容を的確に捉え、構成や展開について積極的に評価しようとしている。	a b c	・振り返りシート ・定期テスト ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポート ・振り返りシート
1	漢文読解	9	思想/荀子 思想/探究の扉 未来に備える遺伝子 随筆(口)ゆく河の流れ(方丈記)	・『孟子』と『荀子』の文章を読み、類似点と相違点を考察する。 ・「性善」(『孟子』)と「性悪」(『荀子』)を読み比べて考えたことを文章としてまとめる。 ・「未来に備える遺伝子」を読んで、単元内で学習した諸子百家の文章に見える考え方との共通点を考える。 ・諸子百家の文章から現代に通じる考え方を探し、文章としてまとめる。 ・「世の中にある人と栖と、またかくのごとし」について、「人と栖」が何とどのように同じなのか、説明する。 ・「無常」に対する作者の考えについて、説明する。	a b c	・振り返りシート ・定期テスト ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポート ・振り返りシート
2	古文読解	9	随筆(口)花は盛りに(徒然草)	・本文で述べられている「月の見所」「花の見所」をまとめる。 ・「男女の情け」における「始め終はり」とは、どのような状態を言うのか。	a b	・振り返りシート ・定期テスト ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察
2	古文読解	3	随筆(口)探究の扉 兼好法師が詞のあげつらひ(玉勝間)	・「花の散り、月の傾くを慕ふ」ことについて、兼好法師と本居宣長はそれぞれどのように考えているか比較する。	a b c	・振り返りシート ・定期テスト ・レポート
3	古文読解 漢文読解	3 3	随筆(口)探究の扉 兼好法師が詞のあげつらひ(玉勝間) 文章/売油翁	・「あだし野の露」の段に対する批評が展開されている本文の続きを読んで、それぞれの内容を比較する。 ・単元内の教材の学習を踏まえて、道家思想が後世の文章に影響を与えた経緯を学習する。 ・「売油翁」の末尾一文の意味を、典故となる『莊子』の文章を踏まえて考え、グループで話し合う。	a b c	・振り返りシート ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポート ・振り返りシート

計105時間（50分授業）

5 課題・提出物等

・授業で使用する補助プリント ・振り返りシート ・古文単語テスト ・レポート

6 授業担当者からの一言

古典探究では、各単元で扱う教材を使って、「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしていきます。単なる文法の確認や暗記ということにとどまらず、内容に関しての「思い」を大切にしていきたいと思います。

(国語探究)

令和7年度シラバス

学番 市中等1 新潟市立高志中等

教育学校

学 科	普 通 科 (人文科学)				
教科名	国語	単位数	3単位	学年	5学年
使用教科書	第一学習社『論理国語』、『文学国語』				
副教材等	尚文出版『鍊成現代文2+』、『大学入試に出た 核心漢字2500+語彙1000』 数研出版『速読トレーニング 小説』				

1 学習目標

・様々な文章を読み、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思考や考えを広げたり深めたりする力を養う。
・言葉が持つ意味を深く理解し、社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化への深い共感力や豊かな想像力を養う。

2 指導の重点

- ①様々な文章に触れ、その構成、語句の意味、表現の仕方などを理解し、言語感覚を豊かにする。
②多様な視点に立ったり、情報を整理したりすることで、より正確に読解する力を養う。

3 評価規準と評価方法

〔評価規準〕 評価は次の3観点で行います。		
a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたって、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	・「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考えたり深く共感したり創造的に考える力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通して積極的に他者や社会と関わったり、自分の思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとするとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。
〔評価方法〕 ・定期考査、課題考査、小テスト、各種課題、授業の取り組みなどから、総合的に評価します。		

4 指導計画

月	単元名	授業 時数	教材	学習活動（指導内容）	評価の 観点	評価方法
---	-----	----------	----	------------	-----------	------

4	評論（一）	4	「天然知能として生きる」	・筆者が定義する「天然知能」について把握し、これからの人間の知性のあり方について、考えを深める。 ・自分の考えが的確に伝わる文章になるよう工夫して表現する。	a b c	・小テスト ・課題の記述内容 ・振り返りの内容、課題の提出状況
	現代の小説（一）	4	「旅する本」	・短編小説の構成やリズムに親しみ、情景に込められた心情を理解する。 ・文学的な文章における文体の特徴や表現技法を理解する。		
5	評論（一）	4	「自他の『間合い』」	・言い換えや比喻を用いながら、自他の関係性について論じる叙述の方法を理解する。 ・筆者の主張を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	a b c	・小テスト ・課題の記述内容 ・振り返りの内容、課題の提出状況
	近代の小説（二）	6	「山月記」	・表現の特徴が作品に及ぼす効果を考え、人が虎になるという怪異の意味を踏まえて作品の主題を考える。		
6	中間考査	1			a、b	
	評論（二）	4	「『私』中心の日本語」	・具体例と主張との関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する日本語の特徴を理解する。 ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。	a b c	・小テスト ・課題の記述内容 ・振り返りの内容、課題の提出状況
	近代の小説（一）	5	「檸檬」	・「私」の心の動きを表現に基づいてたどり、「檸檬」が「私」に及ぼした影響を捉える。 ・文学的な文章を理解するための語彙や語句を豊		
7	評論（二）	5	「日本人の『自然』」	・筆者の述べる西洋と日本の「自然」を対比的に把握し、筆者の問題意識や執筆意図に着目する。	a b c	・小テスト ・課題の記述内容 ・振り返りの内容、課題の提出状況
	近代の詩	4	「小諸なる古城のほとり」 「永訣の朝」	・文語定型詩の構成やリズムに親しみ、情景に込められた心情を理解する。 ・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉え、自分の解釈と他者の解釈を比較検討し、解釈の多様性について考えを深める。		
8	評論（三）	5	「手の変幻」	・筆者の感性や着眼点、表現の特徴について整理し、主張に説得力をもたせるための論理展開について考察する。 ・「『欠落』や『無』が重要な役割を果たしている芸術作品」について、調査したことをまとめたり発表したりする。	a b c	・小テスト ・課題の記述内容 ・振り返りの内容、課題の提出状況
	期末考査	1			a、b	
9	現代の小説（一）	6	「富岳百景」	・様々な文芸的話題や引用がちりばめられた作品を読んで、小説の奥深さとおもしろさを味わう。 ・作品に関連のある事項について調べ、その成果を文章にまとめたり発表したりする方法を学ぶ。	a b c	・小テスト ・課題の記述内容 ・振り返りの内容、課題の提出状況

10	論理研究	3	「推論とは何か」	- 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検証し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する方法を学ぶ。 - 推論のしかたについて理解し、活用する方法を学ぶ。	a b c	- 小テスト - 課題の記述内容 - 振り返りの内容、課題の提出状況
	近代の小説	7	「葉桜と魔笛」	- 小説の展開において、「私」の語りの特徴がもたらす効果を把握しながら読む。 - 小説中で語られる出来事を整理し、その構造が生む効果について、文章にまとめたり、発表したりする方法を学ぶ。		
11	評論（四）	5	「働かないアリに意義がある」	- アリの生態の紹介から人間社会の問題点へと展開する論の構造を読み取り、筆者の主張を理解する。 - アリの生態を紹介しながら人間社会の問題点について述べた文章の内容を基に、自分の考えが的確に伝わる文章になるよう工夫する。	a b c	- 小テスト - 課題の記述内容 - 振り返りの内容、課題の提出状況
	中間考査	1			a、b	
	随想（一）	4	「真珠の耳飾りの少女」	フェルメールの絵画を紹介する文章を読んで、読み手の関心を引きつけるための工夫について		
12	評論（四）	4	「A I 時代の社会と法」	- A I の発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。 - A I の発展がもたらす社会と法の関係の変化について述べた文章を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	a b c	- 小テスト - 課題の記述内容 - 振り返りの内容、課題の提出状況
	戦争と文学（一）	4	「バグダッドの靴磨き」	登場人物同士の関係や心情を把握しながら読み、「僕」の発言の背景にあるものを理解する。		
1	評論（五）	5	「なぜ多様性が必要か」	- 動的平衡という視点から生態系を捉える筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。 「生物多様性が必要だ」という筆者の主張を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	a b c	- 小テスト - 課題の記述内容 - 振り返りの内容、課題の提出状況
	近代の小説（二）	8	「こころ」	物語の展開と出来事を整理しながら、「私」と「K」それぞれの心情をつかむ。		
	期末考査	1			a、b	
	評論（五）	5	「生体認証技術の発展と未来」	- 生体認証技術の持つ課題を文脈から把握し、それが現代社会に投げかける意味について理解を深める。 - 生体認証技術の持つ課題について、自分の考えを的確に伝えられるよう、文章で表現する。	a b	- 小テスト - 課題の記述内容

3	評論（六）	5	「コミュニティ空間としての都市」	・情報の分析に基づく論理展開と対比構造を把握し、将来の社会のあり方を構想できるような広い視野を培う。 ・筆者の意見の根拠や論拠を批判的に検討した上で、自分の考えを論述したり発表したりする。	c	・振り返りの内容、課題の提出状況
	実用文（一）	4	「法に関わる文章を読み比べる」 「ボランティアへの参加を伝えるメールの文章を読み比べる」	・二種類の実用的な文章を読み比べて、必要な情報を読み取り、両者を関連付けて解釈する方法を学ぶ。 ・実用文を書く上でのルールを学び、場面や目的に応じて工夫する必要があることを理解する。 ・自分の考えが的確に伝わるように、表現を工夫して書く。		

計105時間（50分授業）

5 課題・提出物

・小テスト、各種課題、授業で取り組んだノートやプリント等。

6 担当者からの一言

国語探究は、「日本語を通して、コミュニケーション能力を高める」科目です。具体的には、明治以降の評論、小説、詩歌、実用的な文章など、さまざまな文章に触れることで、「読む力」「話す力」「聞く力」「書く力」を高め、総合的な「国語力」の育成を図ります。また、単なる「受験に耐えうる読解力」を伸ばすのではなく、現代社会の課題を自分の力で読み解く方法をそれぞれが見つける科目でもあります。言葉を大切にし、自己を表現するために適切な言葉を用いて、積極的に学習に取り組んでほしいと思います。

（ 国語探究 ）

令和7年度シラバス

学番 市中等1 新潟市立高志中等

教育学校

学 科	普 通 科（生物科学・理工学）				
教科名	国語	単位数	2単位	学年	5学年
使用教科書	第一学習社『論理国語』、『文学国語』				
副教材等	尚文出版『錬成現代文2+』、『大学入試に出た 核心漢字2500+語彙1000』 数研出版『速読トレーニング 小説』				

1 学習目標

・様々な文章を読み、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思考や考えを広げたり深めたりする力を養う。 ・言葉が持つ意味を深く理解し、社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化への深い共感力や豊かな想像力を養う。
--

2 指導の重点

①様々な文章に触れ、その構成、語句の意味、表現の仕方などを理解し、言語感覚を豊かにする。
②多様な視点に立ったり、情報を整理したりすることで、より正確に読解する力を養う。

3 評価規準と評価方法

〔評価規準〕 評価は次の3観点で行います。

a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたって、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	・「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考えたり深く共感したり創造的に考える力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通して積極的に他者や社会と関わったり、自分の思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとするとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。
〔評価方法〕・定期考査、課題考査、小テスト、各種課題、授業の取り組みなどから、総合的に評価します。		

4 指導計画

月	単元名	授業時数	教材	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	評論（一）	4	「天然知能として生きる」	・筆者が定義する「天然知能」について把握し、これからの人間の知性のあり方について、考えを深める。 ・自分の考えが的確に伝わる文章になるよう工夫して表現する。	a b c	・小テスト ・課題の記述内容 ・振り返りの内容、課題の提出状況
	現代の小説（一）	4	「旅する本」	・短編小説の構成やリズムに親しみ、情景に込められた心情を理解する。 ・文学的な文章における文体の特徴や表現技法を理解する		
	評論（一）	4	「自他の『間合い』」	・言い換えや比喩を用いながら、自他の関係性について論じる叙述の方法を理解する。 ・筆者の主張を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。		
6	中間考査	1			a、b	・小テスト ・課題の記述内容 ・振り返りの内容、課題の提出状況
		6	「山月記」	・表現の特徴が作品に及ぼす効果を考え、人が虎になるという怪異の意味を踏まえて作品の主題を考える。	a b c	
7	評論（二）	5	「日本人の『自然』」	・筆者の述べる西洋と日本の「自然」を対比的に把握し、筆者の問題意識や執筆意図に着目する。	a b	・小テスト ・課題の記述内容 ・振り返りの内容、課題の提出状況
	近代の詩	2	「小諸なる古城のほとり」	・文語定型詩の構成やリズムに親しみ、情景に込められた心情を理解する。 ・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉え、自分の解釈と他者の解釈を比較検討し、解釈の多様性について考えを深める	c	

8	評論（三）	5	「手の変幻」	・筆者の感性や着眼点、表現の特徴について整理し、主張に説得力をもたせるための論理展開について考察する。 ・「『欠落』や『無』が重要な役割を果たしている芸術作品」について、調査したことをまとめたり発表したりする。	a b c	・小テスト ・課題の記述内容 ・振り返りの内容、課題の提出状況
	9 期末考査	1			a、b	
	論理研究	3	「推論とは何か」	・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検証し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する方法を学ぶ。 ・推論のしかたについて理解し、活用する方法を学ぶ。	a b c	・小テスト ・課題の記述内容
10	近代の小説（一）	5	「檸檬」	・「私」の心の動きを表現に基づいてたどり、「檸檬」が「私」に及ぼした影響を捉える。 ・文学的な文章を理解するための語彙や語句を豊かにする。		・振り返りの内容、課題の提出状況
11	評論（四）	5	「働かないアリに意義がある」	・アリの生態の紹介から人間社会の問題点へと展開する論の構造を読み取り、筆者の主張を理解する。 ・アリの生態を紹介しながら人間社会の問題点について述べた文章の内容を基に、自分の考えが的確に伝わる文章になるよう工夫する。	a b c	・小テスト ・課題の記述内容 ・振り返りの内容、課題の提出状況
	中間考査	1			a、b	
	評論（四）	4	「A I 時代の社会と法」	・A I の発展がもたらす社会と法の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。 ・A I の発展がもたらす社会と法の変化について述べた文章を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	a b c	・小テスト ・課題の記述内容
12	評論（五）	4	「なぜ多様性が必要か」	・動的平衡という視点から生態系を捉える筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。		・振り返りの内容、課題の提出状況
	近代の小説（二）	6	「こころ」	・物語の展開と出来事を整理しながら、「私」と「K」それぞれの心情をつかむ。		
	1					
2	期末考査	1			a、b	
	評論（六）	5	「コミュニティ空間としての都市」	・情報の分析に基づく論理展開と対比構造を把握し、将来の社会のあり方を構想できるような広い視野を培う。 ・筆者の意見の根拠や論拠を批判的に検討した上で、自分の考えを論述したり発表したりする。	a b	・小テスト ・課題の記述内容

3	実用文（一）	4	「法に関わる文章を読み比べる」への参加を伝えるメールの文章を検討する」	・二種類の実用的な文章を読み比べて、必要な情報を読み取り、両者を関連付けて解釈する方法を学ぶ。 ・実用文を書く上でのルールを学び、場面や目的に応じて工夫する必要があることを理解する。 ・自分の考えが的確に伝わるように、表現を工夫して書く。	c	・振り返りの内容、課題の提出状況
---	--------	---	-------------------------------------	---	---	------------------

計70時間（50分授業）

5 課題・提出物

・小テスト、各種課題、授業で取り組んだノートやプリント等。

6 担当者からの一言

国語探究は、「日本語を通して、コミュニケーション能力を高める」科目です。具体的には、明治以降の評論、小説、詩歌、実用的な文章など、さまざまな文章に触れることで、「読む力」「話す力」「聞く力」「書く力」を高め、総合的な「国語力」の育成を図ります。また、単なる「受験に耐えうる読解力」を伸ばすのではなく、現代社会の課題を自分の力で読み解く方法をそれぞれが見つける科目でもあります。言葉を大切にし、自己を表現するために適切な言葉を用いて、積極的に学習に取り組んでほしいと思います。

令和7年度シラバス（国語） 学番 市中等1 新潟市立高志中等教育学校

教科(科目)	国語(古典探究)	単位数	3単位	6学年	人文科学コース
使用教科書	第一学習社 高等学校 精選「古典探究」				
副教材等	いいずな書房「わかる・読める・解ける 古文単語 330」 第一学習社「完全マスター古典文法」 尚文出版「必携 新明説漢文」 尚文出版「センター試験・共通テスト国語過去問題増補版 古典版」 尚文出版「新共通テスト対策 決戦国語完答 32+6」 ベネッセ「共通テスト対策 実力完成 直前演習 国語」				

1 学習目標

・古文や漢文を読み解く能力を高めるとともに、先人のものの見方や考え方、感じ方に触れ、言葉が持つ価値への認識を深めながら、他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

・古典文法のきまりや訓読方法を理解し、語彙力を高める。
・さまざまな古典の文章を読み、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。

- ・上記を総合的に応用し、自分の人生や社会に対する考えを広げる。

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	・古文や漢文の内容をまとめたり、論理的に文章を書くことや他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	・古語や漢語、特徴的な表現、文化への関心を深め、意欲的に理解、表現しようとするとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化を担う自覚を高めようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・授業中における発問に対する発言、発表や共同作業への取組の観察 ・ワークシート、振り返りノート、提出物などの記述内容の分析 ・小テスト、定期考査 などから、総合的に評価します。		

4 学習計画

月	単元名	教材名	評価の観点	授業	学習活動（指導内容）	評価方法
---	-----	-----	-------	----	------------	------

4	日記 言語活動	蜻蛉日記「うつろ ひたる菊」 「平安朝の結婚」	a・ c	4 2	・女性による日記文学という特 徴を理解し、作品の成立背景や 他の作品との関係をふまえて、 内容の解釈を深める。
	諸家の思 想 言語活動	孟子「何必曰利」 老子「小国寡民」 「読み比べる論語 と老子」	a・ b	3 3 2	・古典を読むために必要な訓読 のきまりにつ いて理解を深めるとともに、 古代中国思想をふまえ、自分の ものの見方や考えを深める姿勢 を養う。
5	随筆	枕草子「宮に初め て参りたるころ」	a・c	4	・随筆という文体の特徴や古典 固有の表現に注意して、文章の 構成や展開、内容を的確にとら えるとともに、当時の宮廷生活 に関する理解を深める。
	逸話	説苑「不顧後患」	b・ c	3	・逸話という文章の特徴をふま えて、古代における主従の関係 性を読み取り、従者の説得の巧 みさを的確にとらえる。
6	物語	源氏物語「明石の 姫君の入内」	a・ c	6	・長編物語を読んで、語彙や古 典常識を豊かにし、人物造形や 心理描写を的確につかむ。
7	物語 言語活動	源氏物語「紫の上 の死」 「貴族の呼び名－ 官職と 位階」	b・ c	6 2	・古典特有の表現に注意して、 構成や展開、内容を的確にとら えた上で、登場人物のそれぞれの 心情心理や行動を理解する。

・定期考査
・小テスト
・ワークシ
ート
・授業中の
発言、取り
組み
・レポート

8	評論	鴨長明「無名抄」	a・b	4	・歌論という文章の種類や古典特有の表現に注意し、構成や展開、内容を的確に捉えるとともに、和歌についての多様な価値基準について理解を深める。
	史記の群像	張儀列伝「張儀」	a・b	6	・遊説家が活躍した時代背景を知るとともに、他の作品との関係を踏まえて内容の解釈を深める。
9	説話	発心集「叡実、路頭の病者を憐れむ事」	b・c	4	・仏教説話の特徴をおさえた上で、登場人物の論理と行動を読み解き、編者が語り伝えようとした価値を考察する。
	史記の群像	刺客列伝「荊軻」	a・b	6	・本文を通読して、日本の文化の特質や中国などの外国文化との関係について、理解を深める。
10	歴史物語 言語活動	大鏡「菅原道真の左遷」 「菅原道真の左遷の真相」 「菅原道真と白居	a・c	4 2 2	・菅原道真が左遷された経緯やその後起こった出来事をふまえ、本文中の和歌や漢詩に込められた菅原道真の心情を理解する。
11	日記	讃岐典侍日記 「堀河天皇との別れ（上巻）」	a・b	6	・重病の天皇に仕えた日々を克明に記した日記を読んで、場面を的確に捉え、登場人物の心情を読み取る。
12	共通試験 対策	共通テスト過去問題・対策問題	a・b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。
1	共通試験 対策 記述問題 対策	共通テスト過去問題・対策問題	a・b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。

2	記述問題 対策	前期試験過去問題	a・ b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。
3	記述問題 対策	後期試験過去問題	a・ b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。

計 1 0 5 時間 (50 分授

業)

5 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに、予習プリントや振り返りシート等を記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

6 担当者からの一言

古典探究は、「我が国の伝統的な言語文化の理解を深める」科目です。古文や漢文のさまざまな文章に触れることで、先人のものの見方や考え方に触れ、自分の思いや考えを広げ深めることによって、言語感覚を磨き、効果的な言葉の使い方を学びます。また、単なる「受験に耐えうる読解力」を伸ばすのではなく、現代社会の課題を自分の力で読み解く方法をそれぞれが見つける科目でもあります。自ら古典に親しみ、自己を表現するために適切な言葉を用いることを心掛けて、学習に取り組んでほしいと思います。

令和7年度シラバス（国語） 学番 市中等1 新潟市立高志中等教育学校

教科(科目)	国語(古典探究)	単位数	2 単位	6 学年	理工学・生物科学コース
使用教科書	第一学習社 高等学校 精選「古典探究」				
副教材等	いいずな書房「わかる・読める・解ける 古文単語 330」 第一学習社「完全マスター古典文法」 尚文出版「必携 新明説漢文」 尚文出版「センター試験・共通テスト国語過去問題増補版 古典版」 尚文出版「新共通テスト対策 決戦国語完答 32+6」 ベネッセ「共通テスト対策 実力完成 直前演習 国語」				

1 学習目標

- ・古文や漢文を読み解く能力を高めるとともに、先人のものの見方や考え方、感じ方に触れ、言葉が持つ価値への認識を深めながら、他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

- ・古典文法のきまりや訓読方法を理解し、語彙力を高める。
- ・さまざまな古典の文章を読み、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。
- ・上記を総合的に応用し、自分の人生や社会に対する考えを広げる。

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	・古文や漢文の内容をまとめたり、論理的に文章を書くことや他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	・古語や漢語、特徴的な表現、文化への関心を深め、意欲的に理解、表現しようとするとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化を担う自覚を高めようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・授業中における発問に対する発言、発表や共同作業への取組の観察 ・ワークシート、振り返りノート、提出物などの記述内容の分析 ・小テスト、定期考査 などから、総合的に評価します。		

4 学習計画

月	単元名	教材名	評価の観点	授業	学習活動（指導内容）	評価方法
---	-----	-----	-------	----	------------	------

4	日記 言語活動	蜻蛉日記「うつろ ひたる菊」 「平安朝の結婚」	a・ c	3 1	・女性による日記文学という特 徴を理解し、作品の成立背景や 他の作品との関係をふまえて、 内容の解釈を深める。	・定期考査 ・小テスト ・ワークシ ート ・授業中の 発言、取り 組み ・レポート
	諸家の思 想	孟子「何必曰利」	a・ b	2	・古典を読むために必要な訓読 のきまりにつ いて理解を深めるとともに、 古代中国思想をふまえ、自分の ものの見方や考えを深める姿勢 を養う。	
5	随筆	枕草子 「宮に初めて参り たるころ」	a・c	3	・随筆という文体の特徴や古典 固有の表現に注意して、文章の 構成や展開、内容を的確にとら えるとともに、当時の宮廷生活 に関する理解を深める。	
	逸話	説苑「不顧後患」	b・ c	3	・逸話という文章の特徴をふま えて、古代における主従の関係 性を読み取り、従者の説得の巧 みさを的確にとらえる。	
6	物語	源氏物語「明石の 姫君の入内」	a・ c	5	・長編物語を読んで、語彙や古 典常識を豊かにし、人物造形や 心理描写を的確につかむ。	・ワークシ ート ・授業中の 発言、取り 組み ・レポート
	漢詩の鑑			2		
7	物語 言語活動	源氏物語「紫の上 の死」 「貴族の呼び名－ 官職と	b・ c	5 1	・古典特有の表現に注意して、 構成や展開、内容を的確にとら えた上で、登場人物のそれぞれの 心情心理や行動を理解する。	

8	評論	鴨長明『無名抄』	a・b	3	・歌論という文章の種類や古典特有の表現に注意し、構成や展開、内容を的確に捉えるとともに、和歌についての多様な価値基準について理解を深める。
	史記の群像	張儀列伝『張儀』	a・b	3	・遊説家が活躍した次代背景を知るとともに、他の作品との関係を踏まえて内容の解釈を深める。
9	説話	発心集 「叡実、路頭の病者を憐れむ事」	b・c	3	・仏教説話の特徴をおさえた上で、登場人物の論理と行動を読み解き、編者が語り伝えようとした価値を考察する。
	史記の群像	刺客列伝『荊軻』	a・b	5	・本文を通読して、日本の文化の特質や中国などの外国文化との関係について、理解を深める。
10	歴史物語 言語活動	大鏡「菅原道真の左遷」 「菅原道真の左遷の真相」	a・c	3 1	・菅原道真が左遷された経緯やその後に起こった出来事をふまえ、本文中の和歌や漢詩に込められた菅原道真の心情を理解する。
	日記	讃岐典侍日記 「堀河天皇との別れ（上巻）」	a・b	3	・重病の天皇に仕えた日々を克明に記した日記を読んで、場面を的確に捉え、登場人物の心情を読み取る。
12	共通試験 対策	共通テスト過去問題・対策問題	a・b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。
1	共通試験 対策 記述問題 対策	共通テスト過去問題・対策問題	a・b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。
2	記述問題 対策	前期試験過去問題	a・b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。

3	記述問題 対策	後期試験過去問題	a・ b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。
---	------------	----------	---------	---	----------------------------------

計 70 時間 (50 分授業)

5 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに、予習プリントや振り返りシート等を記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

6 担当者からの一言

古典探究は、「我が国の伝統的な言語文化の理解を深める」科目です。古文や漢文のさまざまな文章に触れることで、先人のものの見方や考え方に触れ、自分の思いや考えを広げ深めることによって、言語感覚を磨き、効果的な言葉の使い方を学びます。また、単なる「受験に耐えうる読解力」を伸ばすのではなく、現代社会の課題を自分の力で読み解く方法をそれぞれが見つける科目でもあります。自ら古典に親しみ、自己を表現するために適切な言葉を用いることを心掛けて、学習に取り組んでほしいと思います。

令和7年度シラバス（国語）

学番 市中等1 新潟市立高志中等教育学校

教科(科目)	国語(国語探究)	単位数	3 単位	6 学年	人文科学コース
使用教科書	第一学習社「論理国語」、「文学国語」				
副教材等	数研出版「速読トレーニング 1500」 尚文出版「センター試験・共通テスト国語過去問題増補版 現代文版」 ベネッセ「共通テスト対策 実力完成 直前演習 国語」 学研「セレクト小論文」				

1 学習目標

近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。
--

2 指導の重点

- 国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考や想像力を伸ばし、心情を豊かにする。 - 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めるとともに、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 - 上記を総合的に応用し、他者と適切なコミュニケーションをはかれる能力を養成する。

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	実社会を生きるために必要な国語の知識や技能を身につけている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、ものごとを論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	日本語を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 - 授業中における発問に対する発言、発表や共同作業への取組の観察 - ワークシート、振り返りノート、提出物などの記述内容の分析 - 小テスト、定期考査 などから、総合的に評価します。		

4 学習計画

月	単元名	教材名	評価の観点	授業時数	学習活動（指導内容）	評価方法
4	評論	「人間という中心と、それよりも〈軽い命〉」	a・b	6	・具体例（例示）と抽象（意見）の関係を整理して、論理構成を把握し、筆者の述べる人間観を理解する。	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート ・授業中の発言、取り組み ・レポート
	現代の小説	「棒」	b・c	6	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。	
5	現代の小説	「骰子の七の目」	a・b	6	・「私」によって語られる作中世界の異様さを意識しながら、小説の批判精神を読み取る。	
	評論	「身体の個別性」	b・c	6	・ピアジェの「自己中心性」や河上肇の「利他性」と比較しながら、筆者が指摘する「本源的自己中心性」を理解する。	
6	評論	「いのちのかたち」	a・b	6	・主張に説得力を持たせるための論展開を捉え、筆者の抱く「いのち」の概念について考察する。	
	現代の詩	「のちのおもひに」 「ちがう人間ですよ」	a・c	2 2	・詩の構成やリズム、比喩表現が示す内容をつかみながら、表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解する。	
7	実用文	「日本の雇用形態に関わる文章と資料を読み比べる」	a・c	3	・非正規雇用に関する文章と資料から必要な情報を読み取り、複数の情報を関連付けて問題点をまとめる。	
	創作をする	「テーマを決めて短歌・俳句を作る」	b・c	3	・短歌や俳句を詠んで、文体や表現の技法を理解するとともに、同じ題材で捜索し、批評しあう方法を学ぶ。	
8	評論	「コスモポリタニズムの可能性」	a・c	6	・「コスモポリタニズム」の定義や筆者の主張を理解し、グローバル社会に生きる者として問題意識を持つ。	
	随想	「わからないからおもしろい」	b・c	6	・「わからないこと」に対する青年と筆者の考えの差を通して、筆者や職業人の仕事に対する思いを理解する。	
9	評論	「リスク社会とは何か」	a・b	7	・リスク社会の特徴を捉え、そのような社会での人間のありようについて考える。	
	近代の小説	「枯野抄」	a・b	6	・松尾芭蕉の臨終に立ち会う弟子たちそれぞれの心情を把握し、人生や他者に対する考察を深める。	

10	読み比べ	「ヒトの進化と現代社会」	b・c	6	・ジェンダーをテーマにした文章を読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を理解した上で、自分の考えをまとめる。
	戦争と文学	「血であがなったもの」	b・c	7	・出来事の経緯や人物の発言をもとに心理を読み取り、戦争の体験をどのように意味づけるべきかを学ぶ。
11	評論	「『である』ことと『する』こと」	a・b	8	・具体例と主張の関係、段落相互の関係を把握し、民主主義社会のあり方について理解を深める。
	実用文	「生徒会に提出する提案書の内容を検討する」	b・c	3	・与えられた資料と会話を関連付けながら、課題に即して必要な情報を読み取り、活用する。
12	共通試験対策	共通テスト過去問題・対策問題	a・b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力の向上をはかる。
1	共通試験対策 記述問題対策	共通テスト過去問題・対策問題	a・b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。
2	記述問題対策	前期試験過去問題	a・b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。
3	記述問題対策	後期試験過去問題	a・b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。

計 1 0 5 時間 (50 分授業)

5 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに、予習プリントや振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

6 担当者からの一言

国語探究は、「日本語を通して、コミュニケーション能力を高める」科目です。具体的には、明治以降の評論、小説、詩歌、実用的な文章など、さまざまな文章に触れることで、「読む力」「話す力」「聞く力」「書く力」を高め、総合的な「国語力」の育成を図ります。また、単なる「受験に耐えうる読解力」を伸ばすのではなく、現代社会の課題を自分の力で読み解く方法をそれぞれが見つける科目でもあります。言葉を大切にし、自己を表現するために適切な言葉を用いることを心掛けて、学習に取り組んでほしいと思います。

令和7年度シラバス（国語）

学番 市中等1 新潟市立高志中等教育学校

教科(科目)	国語(国語探究)	単位数	2単位	6学年	理工学・生物科学コース
使用教科書	第一学習社「論理国語」、「文学国語」				
副教材等	数研出版「速読トレーニング 1500」 尚文出版「センター試験・共通テスト国語過去問題増補版 現代文版」 ベネッセ「共通テスト対策 実力完成 直前演習 国語」 学研「セレクト小論文」				

1 学習目標

近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。
--

2 指導の重点

- 国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考や想像力を伸ばし、心情を豊かにする。 - 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めるとともに、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 - 上記を総合的に応用し、他者と適切なコミュニケーションをはかれる能力を養成する。

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	実社会を生きるために必要な国語の知識や技能を身につけている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、ものごとを論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	日本語を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 - 授業中における発問に対する発言、発表や共同作業への取組の観察 - ワークシート、振り返りノート、提出物などの記述内容の分析 - 小テスト、定期考査 などから、総合的に評価します。		

4 学習計画

月	単元名	教材名	評価の観点	授業時数	学習活動（指導内容）	評価方法
4	評論	「人間という中心と、それよりも〈軽い命〉」	a・b	3	・具体例（例示）と抽象（意見）の関係を整理して、論理構成を把握し、筆者の述べる人間観を理解する。	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート ・授業中の発言、取り組み ・レポート
	現代の小説	「棒」	b・c	4	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。	
5	現代の小説	「骰子の七の目」	a・b	4	・「私」によって語られる作中世界の異様さを意識しながら、小説の批判精神を読み取る。	
	評論	「身体の個別性」	b・c	4	・ピアジェの「自己中心性」や河上肇の「利他性」と比較しながら、筆者が指摘する「本源的自己中心性」を理解する。	
6	評論	「いのちのかたち」	a・b	4	・主張に説得力を持たせるための論展開を捉え、筆者の抱く「いのち」の概念について考察する。	
	現代の詩	「のちのおもひに」 「ちがう人間ですよ」	a・c	1 1	・詩の構成やリズム、比喩表現が示す内容をつかみながら、表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解する。	
7	実用文	「日本の雇用形態に関わる文章と資料を読み比べる」	a・c	2	・非正規雇用に関する文章と資料から必要な情報を読み取り、複数の情報を関連付けて問題点をまとめる。	
	創作をする	「テーマを決めて短歌・俳句を作る」	b・c	2	・短歌や俳句を詠んで、文体や表現の技法を理解するとともに、同じ題材で搜索し、批評しあう方法を学ぶ。	
8	評論	「コスモポリタニズムの可能性」	a・c	4	・「コスモポリタニズム」の定義や筆者の主張を理解し、グローバル社会に生きる者として問題意識を持つ。	
	随想	「わからないからおもしろい」	b・c	3	・「わからないこと」に対する青年と筆者の考えの差を通して、筆者や職業人の仕事に対する思いを理解する。	
9	評論	「リスク社会とは何か」	a・b	4	・リスク社会の特徴を捉え、そのような社会での人間のありようについて考える。	
	近代の小説	「枯野抄」	a・b	4	・松尾芭蕉の臨終に立ち会う弟子たちそれぞれの心情を把握し、人生や他者に対する考察を深める。	

10	読 み 比 べ	「ヒトの進化と現代社会」	b・c	4	・ジェンダーをテーマにした文章を読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を理解した上で、自分の考えをまとめる。
	戦 争 と 文 学	「血であがなったもの」	b・c	4	・出来事の経緯や人物の発言をもとに心理を読み取り、戦争の体験をどのように意味づけるべきかを学ぶ。
11	評 論	「『である』ことと『する』こと」	a・b	4	・具体例と主張の関係、段落相互の関係性を把握し、民主主義社会のあり方について理解を深める。
	実用文	「生徒会に提出する提案書の内容を検討する」	b・c	2	・与えられた資料と会話文を関連付けながら、課題に即して必要な情報を読み取り、活用する。
12	共通試験対策	共通テスト過去問題・対策問題	a・b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力の向上をはかる。
1	共通試験対策 記述問題対策	共通テスト過去問題・対策問題	a・b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。
2	記述問題対策	前期試験過去問題	a・b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。
3	記述問題対策	後期試験過去問題	a・b	4	・問題演習と解説を通して、語彙力、読解力、表現力の向上をはかる。

計 7 0 時間 (50 分授業)

5 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに、予習プリントや振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

6 担当者からの一言

国語探究は、「日本語を通して、コミュニケーション能力を高める」科目です。具体的には、明治以降の評論、小説、詩歌、実用的な文章など、さまざまな文章に触れることで、「読む力」「話す力」「聞く力」「書く力」を高め、総合的な「国語力」の育成を図ります。また、単なる「受験に耐えうる読解力」を伸ばすのではなく、現代社会の課題を自分の力で読み解く方法をそれぞれが見つける科目でもあります。言葉を大切に、自己を表現するために適切な言葉を用いることを心掛けて、学習に取り組んでほしいと思います。